

日本文学研究、諺や伝記・芸能のほか、膨大な著作を網羅。

クレス出版

# 藤井乙男著作集

竹野 静雄 編・解説  
全9巻

# 刊行のことば

竹野静雄

藤井乙男といえ、ただちに近松・西鶴・秋成に俳諧・諺をまず思い浮かべる。しかしその実、膨大な著作は日本文学のあらまし全分野に亘っている。ちなみに目ぼしいその著作を挙げてみる。「万葉集略解」「竹取翁物語新釈」「伊勢物語新釈」「古今集遠鏡 附六歌仙集」「宇治拾遺物語」「校註沙石集」「校註平家物語」「御伽草子」「仮名草子の研究」「浮世草子名作集」「校註雅文笑話集」「浄瑠璃稀本集」「近代歌謡集」「橘曙覧歌集」「蜀山家集」。こうした通時的知見が、上代歌謡から近代文芸に至る「日本文学史」や文法書の説述を可能ならしめたことは、ほとんど疑いを容れない。

考証学的・書誌学的方法によるその校註は「甚だ精到緻密」「斯界空前の力作」といわれ、俗談論はまた「考証該博にして議論穩健」、文学史はさらに「記述の繁簡その宜しきを得……類書の中にあつて白眉」と称され、博搜・網羅の『秋成遺文』に至っては「文献そのものに語らしめようとする」と評された。考証学・書誌学の眼と手は、中国はもちろん西欧にも及ぶ。「支那小説の翻訳」や「赤本と西洋文学」はその一例にすぎない。ために諺の研究・辞典類を播けば、日・中・欧の群籍に涉り、とりわけ英・独については原文を併載するなど、とうに国際化の地平を拓いていたことが十分わかるだろう。

『JAPANESE PROVERBS』(一九四〇)はそのきわやかな結晶にほかならない。敗戦後の一時期、「国文学者の視野狭窄症」が厳しく問われたが、藤井の立ち位置は絶えずその対極にあつたのである。

「日新の学界は新研究・新発見相次ぐ。著者は機会を得るごとに、随時補訂して完璧を他日に期したいと思ふ」(『日本文学史要』例言)。はたしてどうであつたか。まずは『新撰帝国小史』(二八九八)から『日本文学通史』(一九四四)へ、次いで『近松門左衛門』(一九〇四)から遺稿『近松門左衛門伝』(一九四四)へ、さらに『俗談論』(一九〇六)から最晩年の『諺語大辞典』増補版(中断)へ、また『秋成遺文』(一九一九)の再増補・改訂(同)へと次々迎れば、半世紀にわたる学究生活はまさしく増補・更新の過程であつたことが、おのずと分かるのである。

今回、『近松全集』はじめ比較的閲覧しやう校註書の本文・注釈は割愛し、代りに単行本未載の新聞・雑誌・諸講座の著作を可能な限り収めた。百余年前の新聞・雑誌自体、すでにアクセス不能なものもあつて、むろん十分とはいえないが、博識洽聞・壮大な営為の一俯瞰にはなり得ていると思う。

(二)松學舎大學教授



JAPANESE PROVERBS

## 六 前期の小説

家康の學問獎勵・書籍刊行は近世文化の進展に至大の影響を與へ、寛永・正保の頃から通俗的の出版物も續出するに至つた。かくて小説の刊行せられるものも、かなり多かつたが、前期の初頭にあつてはそれらはなほ純文學の域に至らず、軍記・倫理・宗教・地理等に關し所謂假名草子で、これを内容的に見れば、啓蒙的なもの、教育的なもの、娛樂的なものとも分けられよう。

まづ啓蒙的なものは諸種の知識・技藝に關する通俗書で、軍記物としては小瀬甫庵の信長記・太閤記、三浦淨心(正保元年「一六」)の北條五代記(萬治三年「一」)があり、大坂陣を書いた大坂物語(元和)・島原合戦に取材した島原合戦記(寛永十七年)がある。事實物語としては明曆の大火を素材とした武藏顛末を記した水鳥記(寛文二年)がある。竹齋・東海道名所記等は地理小説頃の作と推定せられ作者は鳥丸光廣(寛永十五年「一」)といはれ、一時大いに後者は淺井了意の作、萬治元年に成つたが、この種の作品の中では最も傑出からそれに摸して滑稽化した尤草紙(寛永九年・仁勢物語(鳥丸光廣)の類も)次に教育的なものとしてはまづつれづれ草に擬した作の中では、如偏子の梅草(正保四年)・曾我休自の愚痴物語(寛文二年)等がその尤なるもの

## 第三章

### 平假名

平假名は萬葉假名を草体になし、更に之を簡易にくづしたるものなり。これも最初は其字体まち／＼かりけひを、空海が涅槃經中の諸行無常、是生滅法、生滅々已、寂滅爲樂といへる四句偈の意をとり、いろは歌を作りて、世に弘めしより、字體統一せしなるべし。其歌の意は「色は匂へど、散りぬるを、我世誰ぞ、常ならむ、有爲の奥山、今日越えて、淺き夢見と、酔ひもせず」にて、之に京の字を添ふることも、古きならはしと見ゆ。頼阿法師の高野日記に、いろは四十八字といひ、その歌にも京の字をよみたれば、此頃既に然りしなり。僧文雄の説に、こはさやうといふ合字の法を教へたるものにて、此字を撰びたるは、京を尊々意なるべしといへり。契沖は梵語の摩訶に、大多勝の三義あり、京にも多勝の義あれば、上の四十七字を

第1巻 江戸文学研究

江戸文学概観、江戸初期の三教一致物語、仮名草紙の作者、鈴木正三、禅僧と小説、藻屑物語と男色義理物語、支那小説の翻訳、松永貞徳の父祖について、元政壁書といふ文の事、むれ木、歌舞伎草子、寛永十二年跳記、淡路の古謡、諸国盆踊唱歌と山家鳥虫歌、西山宗因、西山宗因の松島紀行、元禄文壇の三偉人、芭蕉と恋、西鶴讀、西鶴の浄瑠璃、浮世花鳥風月と浮世栄花一代男、巢林子讀、巢林子の書簡、今源氏六十帖と四季御所桜附榎屋梅川、浄瑠璃雑考、元禄時代の京都小説家、播磨相原について、千那と角上、俳人惟然の称呼について、来山と鬼貫、大淀三千風、横井也有、也有のくだみ草、也有と六林、六林文集「まにふむで」、類句、蕪村の評卷と書簡、諺と文学、赤本と西洋文学、縣居翁の書簡、江戸後期の京阪小説家、綾足と秋成、傾城倭莊子と棧道物語、秋成雑考、自筆本胆大小心録、黄表紙鼻下長物語、昔の原稿料、馬琴と北斎、馬琴の書簡、式亭三馬、あしに葉わけ、西村定雅、漢学先生の通人、「大隈言道」を読む (内外出版、大正10年)

第2巻 江戸文学叢説

俳諧篇 貞徳藤原惺窩を弔ふ、季吟の歌俳難易説、季吟と東本願寺、季吟と藤堂任口、木畑定直と犬井貞恕、宗因の津山紀行、鶏賀と鬼貫、「仏の兄」を読み、黒田源次氏の「芭蕉翁伝」を読み、芭蕉の行脚掟、芭蕉遺文二三、芭蕉の二見の句、蕉影余韻を見て、杉風・曾良より芭蕉への消息、越人の書簡、去来と文章(蕉門二哲考)、俳人の歌、其角自筆の履歴書、淡々の雑談、六林に寄せた也有の消息、堀麦水(附山中問答)、五升庵蝶夢雑考、柳樽の先駢、春町の通言俳諧、一茶と俗語、寓目偶得、俳文について、俳諧飛花落葉、雜祭 戯曲篇 説経節について、西鶴の浄瑠璃「曆」の発見、文章家としての近松、近松と古文学、近松と俗謡、近松初期の作品(鳥羽恋塚物語と一心五戒魂、「源氏烏帽子折」と「烏帽子折」、融大臣、巢林子の逸文、傾城若紫の紹介、春日仏師枕時鶏、改作は害作、道中評判敵打について、近松院本の語句解釈について、小説正難、浅松語彙を見て、外題年鑑及び操年代記の異版) 小説篇 江戸時代の稀観書二種、西駅竹枝、「蛇性の姪」について、上田秋成の「海道狂歌合」、曲亭来簡集、古裂帖 (岩波書店、昭和6年)

第3巻 史話俳談

後水尾天皇の御文藻、正親町公通卿の雅懐、西鶴の一句、西鶴と猥雑、近松門左の逸話、近松雑攷、錦文流と心中恋の中途、上田秋成と煎茶、蓮月尼の戯文、百聯抄について、再び百聯抄について、上村閑堂著「五山詩僧伝」に題す、享保以来大阪出版書籍目録を読む、書物・電報・火災、謔苑より俚言集覧へ、天明の通言、当字について、俗語と当字、故事成語の誤用、校正のさかしら、草木の異名椿、鯉、筍、魚味、炎涼一味、阿誰軒の俳諧書籍目録と俳諧渡奉公、伊勢俳諧大発句帳抜書、「落花枝に帰る」は守武の句に非ず、宗祇、宗牧、守武、利清、伊勢小町等の逸話、貞徳の徒然慰草、貞徳の揮毫峻拒、馬鹿集、俳諧熊坂、歩荒神下巻の紹介、江戸町名俳諧、うたひ俳諧、如意宝珠、捨女の恋歌仙、加藤馨齋の「俳諧談」、季吟の「師馳の月夜」、西山宗因伝、自筆本宗因恋百韻、鬼貫の俳風、丈艸の手簡、大淀三千風の句と文、也有の老人教訓、蓼太の五月雨の句、沾徳の自句自注、風律の癖物語、片歌是非、綾足の能保野まうで、上田秋成略伝、上田秋成の俳調義論、秋成の也哉抄、胆大小心録と俳諧、不二菟一柳、俳人外の俳句、擬古俳諧、定雅の「雪とすみ」、妖怪俳諧、俳諧忠臣蔵(晃文社、昭和18年)

第4巻 文学史

日本文学史要(三省堂出版、昭和23年) 万葉集より古今集に到る言語の変遷(太陽、明治29年) 御伽草子(岩波講座日本文学、岩波書店、昭和7年) 江戸文学概説(日本文学社、昭和10年) 江戸文学概説(日本文学講座、新潮社、昭和3年) 仮名草子の研究(日本文学講座、改造社、昭和9年) 元の木阿弥考(北辰会雑誌、明治34年) 笑話数則(北国新聞、明治41年) 西鶴の好色物と町人物(婦人公論、昭和6年) 色と金の文学(評釈江戸文学叢書月報②、昭和10年) 二代男のうちから(月刊日本文学、昭和6年) 浮世草子雑記(評釈江戸文学叢書月報⑩、昭和12年) 秋成佚文(国文学攷、昭和10年) 秋成雑俎 蟹のはらわた(国語・国文、昭和18、19年) 洒落本「六丁一里」の刊年について(国語・国文、昭和7年)

第5巻 俳諧研究

俳諧史概論(俳句講座、改造社、昭和8年) 貞門俳諧史(俳句講座、改造社、昭和8年) 宗祇・宗鑑・守武(俳句講座、改造社、昭和7年) 元禄の諸家(俳句講座、改造社、昭和7年) 俳句の沿革に就て(懸葵、大正5、11年) 季題概論(続俳句講座、改造社、昭和9年) 俳句と題材(日本文学講座、昭和9年) 句集解説(俳句講座、改造社、昭和7年) 風俗文選序説(風俗文選通釈、麻田書店、昭和4年) 専門学校教科書所載俳句評釈(続俳句講座、改造社、昭和9年) 風俗文選選釈(俳句講座、改造社、昭和7年) 古俳諧の用語二三の解釈(石楠、昭和4年) 俳話数則(北辰会雑誌、明治39年) 大阪版の俳書について(国語・国文、昭和10年) 本願寺と松永貞徳(懸葵、昭和15年) 立圃の名月記(懸葵、昭和7年) 松島眺望集(懸葵、昭和15年) 西鶴の句(虫籠、明治34年) 芭蕉俳句研究に就て(潮音、大正13年) 芭蕉の消息(にひはり、大正13年) 芭蕉異伝(ホトトギス、大正6年) 寿貞は芭蕉の妾に非ず(芸文、大正6年) 湯殿山の句と季題(芭蕉研究、昭和22年) 池西言水の句巻(懸葵、昭和8年) 蕪村雑感(懸葵、昭和8年) 月溪の句(懸葵、大正10年) 秋成の俳句について(雪吹、明治33年) 我が好む月の句(懸葵、大正10年) 日本俳句発祥三十周年を記念すべく子規居士を中心としたる諸家の感想 (懸葵、大正11年)

第6巻 伝記・芸能

近松門左衛門(金港堂書籍、明治37年) 近松門左衛門伝(附藤井乙男年譜、国語・国文、昭和21年) 巢林子雑攷(帝国文学、明治37年) 巢林子筆菊花堂記(典籍の研究、大正14年) 義大夫の一生(大阪朝日新聞、昭和9年) 上田秋成伝(「秋成遺文」、修文館、大正8年) 利休について(茶道全集、創元社、昭和10年) 伊勢小町と其子普齋(懸葵、昭和7年) 其日庵三代略歴(懸葵、昭和7年) 久我庄七伝(北辰会雑誌、明治31年) 正岡子規君(日本、明治35年) 多くの崇拜者(「子規言行録」、政教社、昭和11年) 私の見た漱石とその俳句(現代のエスプリ、昭和42年) 山姥は遊女(芸芸春秋、大正15年) 当世こうた揃(芸文、明治45年) 阿弥陀の本地と四十八願記(帝国文学、明治36年) 近松の世話浄瑠璃に見はれたる衣服(風俗研究、大正11年) 浄瑠璃本の奥書と版元(上方、昭和16年)

第7巻 ことわざ研究

諺の研究 諺の意義及び形式、諺の発生及び変遷、諺の比較及び地方的特色、諺の機智、教訓及び詩趣、諺と道德、諺と宗教、附録 北条氏直時代諺留、毛吹草、世話尽、世話詞徒渡世雀、娑婆弥次郎、朝鮮の諺、諺と俳諧、十番諺合、世話尽病魔経(更生閣、昭和4年) JAPANESE PROVERBS(国際観光協会、昭和15年) 宗教に関する諺、男女・夫婦・婚嫁・恋愛等に関する諺、西諺女性観、親子・兄弟・叔姪等に関する諺、酒に関する諺 (俗諺論) 附録、富山房、明治39年) 世話雑談(日本、明治31年) 俚諺雑話(北辰会雑誌、明治32、33年) 世話句解(雪吹、明治33年) 動植物にちなめる諺(帝国文学、明治31、33年) 古俳書中の諺(ほととぎす、明治33、34年) 諺の転訛(ほととぎす、明治32年) 異語同意の諺(ホトトギス、明治38年)

第8巻 解説・解題集

国文学名著集 解題・解説 竹取翁物語解、伊勢物語新釈、宇治拾遺物語、校註沙石集、校註平家物語、近松世話物全集、浄瑠璃稀本集、校註雅文笑話集(文献書院、昭和2、3年) 歌謡俳書全集 解題・解説 万葉集略解、古今集遠鏡附六歌仙集、橘曙覧歌集、拳白集、芭蕉七部集、万葉集檜の杣、蜀山家集(文献書院、昭和2、5年) 近松全集 第一巻「はしがき」、第三巻「巻末の辞」、全曲解説 (朝日新聞社、大正14年) 歴 解題(貴重図書影本刊行会、昭和7年) 西鶴名作集 序言・解題(講談社、昭和10年) 浮世草子名作集 解題(講談社、昭和12年) 西鶴五人女詳解 はしがき(木鐸社、昭和6年) 西鶴自筆自註独吟百韻 解説(大阪三越支店、昭和6年) 西鶴文集 上・下 緒言(有朋堂文庫、大正2年) 名家俳句集 緒言(有朋堂文庫、大正3年) 近代歌謡集 緒言(有朋堂文庫、大正4年) 御伽草紙 緒言(有朋堂文庫、大正11年) 雁の草子 解説(京都帝国大学、昭和15年) 車僧草子 解説(京都帝国大学、昭和16年)

第9巻 書評・序文・雑纂/国語便覧

平安朝文学史を読む(日本、明治38年) 蕪村句集を読む(帝国文学、明治29年) 「歌舞伎限取概観」を読む(東京朝日新聞、昭和6年) 「歌舞伎図説」(東京日日新聞、昭和6年) 「俳諧史の研究」を読む(大阪朝日新聞、昭和8年) 江戸文芸論考(大阪朝日新聞、昭和12年) 東西芭蕉遺墨展覧会を見て(芭蕉研究第一輯、昭和17年) 国文学史講話 序(東京開成館、明治41年) 数奇伝 序(玄黄社、大正元年) 俳人子規 序(実業之日本社、大正6年) 近代小説史 全 序(大倉書店、大正6年) 田捨女 序(青雲社、昭和3年) 芭蕉襪記 序(武蔵野書院、昭和3年) 俳諧史の研究 序(星野書店、昭和8年) 俳人真蹟全集 第一巻 貞門時代 序(平凡社、昭和12年) 芭蕉研究 第一輯 題詞(靖文社、昭和17年) 俳文学論考 序(養徳社、昭和19年) 芭蕉講座 第一巻 序(三省堂出版、昭和22年) お伽噺 亀と王様(少年界、明治35年) 趣味の教育(江湖文学、明治29年) 南京皿の絵模様(帝国文学、明治36年) 百味譜(芸文、明治45年) 小発見(芸文、大正5年) そのをりく(芸文、大正15年) 日本文学史上に於ける 好きな人物・嫌ひな人物 一茶その他 (日本文学講座、新潮社、昭和2年) 漫読漫録(懸葵、昭和4、6年) 六松居雑筆(懸葵、昭和10年) 舟山莊雑記(懸葵、昭和10、14年) 操觚便覧(明昇堂、明治32年)

雑纂

序文

国語便覧

芸能

# 藤井乙男著作集 全9巻

竹野 静雄 編・解説

第1巻	江戸文学研究	定価16,500円(税別)	ISBN978-4-87733-351-5
第2巻	江戸文学叢説	定価11,500円(税別)	ISBN978-4-87733-352-2
第3巻	史話俳談	定価10,000円(税別)	ISBN978-4-87733-353-9
第4巻	文学史	定価14,500円(税別)	ISBN978-4-87733-354-6
第5巻	俳諧研究	定価 9,000円(税別)	ISBN978-4-87733-355-3
第6巻	伝記・芸能	定価 9,500円(税別)	ISBN978-4-87733-356-0
第7巻	ことわざ研究	定価16,000円(税別)	ISBN978-4-87733-357-7
第8巻	解説・解題集	定価17,000円(税別)	ISBN978-4-87733-358-4
第9巻	書評・序文・雑纂／国語便覧	定価10,000円(税別)	ISBN978-4-87733-359-1

全9巻揃定価114,000円(税別) ISBN978-4-87733-360-7(セット)

A5判／上製函入／クロス装 平成19年2月末日刊行

## ● クレス出版好評既刊書 ●

### 仮名草子研究叢書

全8巻／深沢秋男・菊池真一編・解説

「仮名草子」の命名者、水谷不倒の『近世 列伝小説史』をはじめとして、明治末から昭和戦後初期までの仮名草子研究に必要な雑誌論文、単行本収録文献を年代順に収録。明治以来の研究を振り返り、巨視的な観点から仮名草子を見直すべく編集。

A5判／揃定価本体85,000円 ISBN4-87733-315-0

### 草双紙研究資料叢書

全八巻／中村正明編・解説

草双紙研究の初期を通観できるように編集。

①②草双紙研究 ③文学史抄 ④解説・解題類

⑤雑誌論文集 ⑥翻刻・注釈集 ⑦書目

⑧草双紙・草双紙評判記

A5判／揃定価本体95,000円 ISBN4-87733-325-8

### 西鶴研究資料集成

全8巻／竹野静雄監修・解題

明治5年7月から、大正期に企画された叢書の下限(昭和3年5月)までの井原西鶴にかかわる作家論、作品論・解題、随想、文学史、著作年表、教科書、世相・風俗考証、辞典その他の資料467点を発表順に収録、最終巻に「執筆者索引」を付す。

A5判／揃定価本体126,000円 ISBN4-906330-87-8,88-6

### 西鶴研究

全四巻／西鶴学会編 竹野静雄解説

西鶴文学を、文学は勿論、言語・文化・風俗・経済その他あらゆる部門より究明せんとする純学術研究機関誌。西鶴に関する新資料を掲載し、西鶴に関する学会・文献・出版その他彙報の記事を網羅し、西鶴年鑑の役割も果たす。昭和17、18、23～32年。

B5判／揃定価本体95,000円 ISBN4-87733-131-X

### 秋成研究資料集成

全12巻／近衛典子監修・解説

昭和30年代頃までに刊行された上田秋成の伝記研究書、論文および『雨月物語』、『春雨物語』の注釈書、研究書とともに、小説論文、和歌・俳諧・国学・茶道その他についての論文、雑誌特輯号を収録。

A5判／揃定価本体95,000円 ISBN4-87733-170-0

### 若月保治浄瑠璃著作集

全7巻／秋本鈴史・和田修・林久美子・阪口弘之解説

本来英文学者であった若月保治の浄瑠璃に関する著作を集成。

①近松人形浄瑠璃の研究 定価本体22,000円

②人形浄瑠璃史研究一人形浄瑠璃三百年史 定価本体25,000円

③近世初期国劇の研究 定価本体13,000円

④古浄瑠璃の研究 全四巻 揃定価本体95,000円

### 近世和歌研究書要集

全八巻／中澤伸弘・宮崎和廣・鈴木亮編・解題

近世和歌研究の為の基本的な書物で今日容易に手に入れ難いものいくつかを集めて、詠風や人物、歌書等に至る研究の資料とする。福井久蔵や森敬三の著作のほか、熊谷武至の私家版稀観本、光葉会(昭和女子大学)の「文学遺跡巡礼」を収録。

A5判／揃定価本体95,000円 ISBN4-87733-301-0

### 蕉門研究資料集成

全八巻／佐藤勝明編・解説

俳諧という文芸の本質を明らかにするために、また芭蕉という存在の独自性と普遍性を見極めるためにも蕉門研究・俳壇研究は必要である。蕉門に関する昭和30年代までに刊行された基本的文献を復刻。

A5判／揃定価本体95,000円 ISBN4-87733-239-1

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 ヌロ一ナ日本橋  
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

 株式会社クレス出版

●書店名